

イベントでお話いただいた 村松さんのキャリアストーリー



現在、エアラインサービス、ホスピタリティ、ホスピタリティの現場で使うような丁寧なビジネス英語を大学で講義している。

普通の総合大学に入ったものの、洋服のデザイナーになる夢が忘れられなく、大学2年生の時に大学に通いながら同時に夜間専門学校で服飾デザインとパターンを学びはじめた。しかし才能がないな、と自分で感じ、1年で夜間の専門学校を辞めて普通に大学に戻り、大学3年生の冬休みにロンドンに短期留学した。短い期間だったが、このとき私は将来の方向性を4つ決めた。そして私は4つが実現できるような職業として客室乗務員というものを選び、キャリアをスタートした。

そこから16年ぐらい主に国際線に乗務していたが乗務しながら、どうやったらもっと良いサービスが提供できるか、どんな教育をしたら客室乗務員はもっと生き生き仕事ができるのか、そんなことを考えながら仕事をしてきた。楽しく仕事をしてきたが、プライベートで突然怪我をし、救急車で運ばれて手術をしてリハビリをすることになった。

その時、こうやってキャリアは突然断絶するんだということを身にしみて感じた。このときは私のひとつの大きな転機で、そういうことに悩む人、「キャリア断絶に悩む人の何か助けができないか」と思い、日本キャリア開発協会のCDA資格を取ってキャリアカウンセラーとしてのキャリアをスタートさせた。

その後1年経って仕事に戻り、マネージャーとしてまた乗務をしながら、高品質や人材育成のことを考えたりしながら、主に外国人客室乗務員のマネジメントを専門にしてきた。ずっと一社で働いてきたが、2015年に初めてグループ外の企業に出向した。国内航空会社の一社が経営破たんをし、グループ会社ではなかったが、私の会社の持株会社が経営再建の手伝いをする事となり、私は客室部門の支援のため出向となった。ここで3年間グループ外の会社で仕事をするという貴重な経験をした。このときに自分の会社を外から見るという経験をした。自分が培ってきたものがどんな形で役に立っているのかを経験した。現場というのはどこでも一緒だということはこのときすごく強く感じ、お客様のことを思っているというのは、会社を問わずフロントラインは同じ熱い気持ちを持っている、そんなところをサポートしたいと思った。

3年後出向元に戻り、8000人規模の組織を役員と一緒にマネジメントした。昨年、今の所属であるシンクタンクに出向し大学で講義を始めたが、それと同時に社内兼業に手を挙げグループ全体の研修講師も1年間した。今年から、4年制総合大学で正課授業を受け持つことになりそこに専念をしている。

私は、本業でもプライベートでも、働く人の支援に関わることをずっと大切にできてきたと思っている。先ほどお話しした怪我をきっかけにキャリアカウンセラーの資格をとり、それ以来何かしら働く人の支援というものにずっと関わってきた。JCDAではピアファシリテーター、ピアファシリテーターアドバイザーといったカウンセラーのスキルをみんなで伸ばしていこうといったことに関わってきた。

また、今日ご一緒している酒井さんと共に「汐留キャリアカウンセラーズコンソーシアム」という任意団体で、汐留に本社がある企業内キャリアカウンセラーと共に企業内カウンセラーはどんなふう活躍できるのかといったことを考えてきた。そのように働く人の支援やカウンセラーの活躍を考える中で、キャリアカウンセラーは心の問題を扱う機会がないが、メンタルで悩む同僚や仲間を見ている中で、やはり心理をきちんとやりたいと思うようになり公認心理師の資格をとった。今年からは更に大学院でカウンセリング心理学を学んでいる。

プライベートではゴルフしたり、旅をしたり、読書を楽しんでいる。色々なところに旅行し多様な文化に触れることがとても好き。